

リハビリテーション科専門研修プログラム

（１）大阪大学リハビリテーション科専門研修プログラムについて

大阪大学リハビリテーション科専門研修プログラム（以下 PG）は、将来の日本のリハビリテーション医療や介護・福祉領域を含めた地域包括ケアシステムにおけるリーダーシップを果たす人材を育てるため、幅広い経験を、経験豊富な指導医により教育するシステムをポリシーとしています。診療のみならず、リハビリテーションに関する研究や医師や多職種チームに対する教育にも貢献できる人材を育成します。

基幹研修施設である大阪大学医学部附属病院にはリハビリテーション医学講座はないものの、整形外科医や神経内科医がリハビリテーション専門医の資格を取得して、質の高いリハビリテーション医療を提供してきた実績があり、2015年から診療科としてもリハビリテーション科が独立しました。関西の中心地に位置するため、近畿圏だけでなく中国・四国・北陸・中部方面からの交通の便もよく、全国からの専攻医を受け入れ、日本全国をリードするリハビリテーション医の育成を目指した研修環境を整備しています。また大学病院として研究にも力を入れており、臨床を行いながら研究活動に参画することもできます。

関連研修施設には、回復期病床をもつリハビリテーション専門病院や総合病院、脊髄損傷・切断・摂食嚥下・小児など専門性の高い研修を行うことができるリハビリテーション専門病院、総合病院、肢体不自由児施設が幅広く揃っています。また、地域包括ケアシステムに貢献する生活期リハビリテーションの研修機会も十分用意しています。このため研修プログラムの3年間で、大学病院における急性期リハビリテーションの研修、回復期病床における回復期の研修、専門性のあるリハビリテーション医療の研修、の3本柱から成る研修を可能としています。また関連施設では維持期（生活期）のリハビリテーション、障害者福祉などを経験することができます。

（２）リハビリテーション科専門研修はどのようにおこなわれるのか

1）研修段階の定義

リハビリテーション科専門医は初期臨床研修の2年間で専門研修（後期研修）の3年間の合計5年間の研修で育成されます。

- 初期臨床研修2年間に、自由選択でリハビリテーション科を選択する場合もありますが、この期間をもって全体での5年間の研修期間を短縮することはできません。
- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と日本リハビリテーション医学会が定める「リハビリテーション科専門研修カリキュラム（以下、研修カリキュラムと略す）」にもとづいてリハビリテーション科専門医に求められる知識・技術の修得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮します。
- 専門研修期間中に大学院へ進むことも可能です。大学病院において診療登録を行い、臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであれば、その期間は専門研修として扱われます。しかし基礎的研究のために診療業務に携わらない期間は、研修期間とはみなされません。
- 研修 PG の修了判定には以下の経験症例数が必要です。日本リハビリテーション医学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている経験すべき症例数を以下に示します。
 - （１） 脳血管障害・外傷性脳損傷など：15例
 - （２） 運動器疾患・外傷：19例
 - （３） 外傷性脊髄損傷：3例
 - （４） 神経筋疾患：10例
 - （５） 切断：3例
 - （６） 小児疾患：5例

- (7) リウマチ性疾患：2例
- (8) 内部障害：10例
- (9) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）：8例

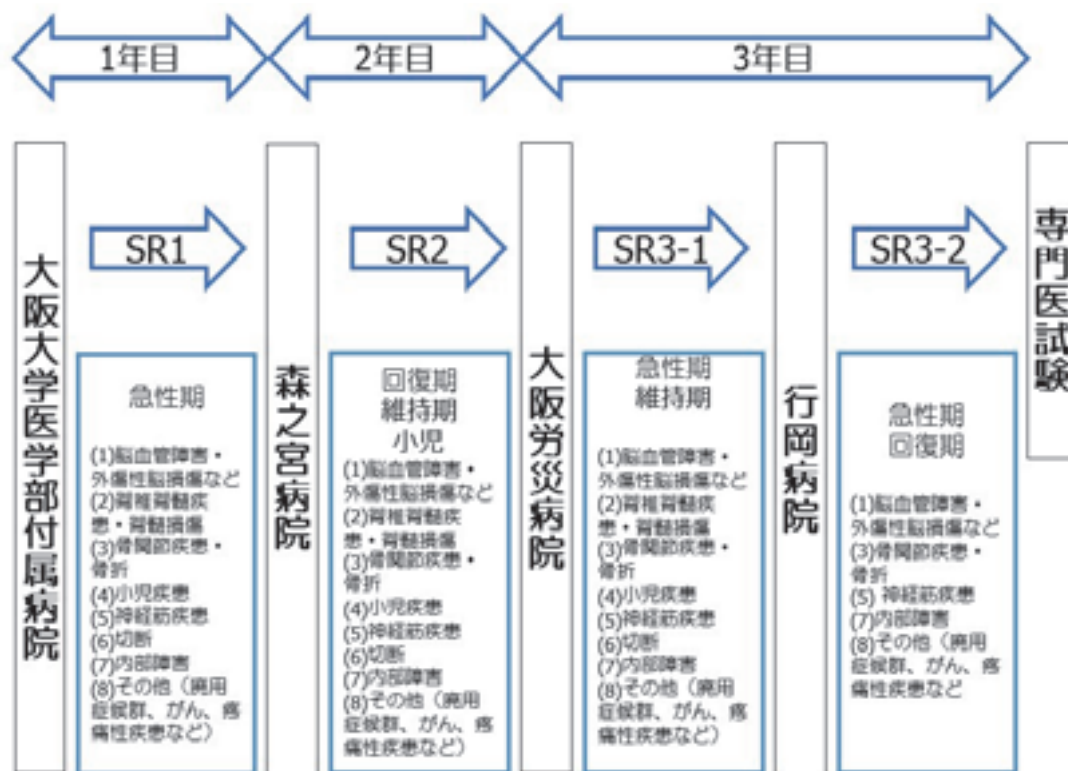
以上の75例を含む100例以上を経験する必要があります。

2) 年次毎の専門研修計画

専攻医の研修は毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。しかし実際には、個々の年次に勤務する施設には特徴があり、その中でより高い目標に向かって研修することが推奨されます。

3) 施設群における専門研修コースについて

図1に大阪大学リハビリテーション科研修PGの1コース例を示します。SR1は基幹施設、SR2, SR3-1, SR3-2は連携施設Aでの研修です。1年目は基幹研修施設である大阪大学医学部附属病院、2年目は回復期リハビリテーション病床などリハビリテーション科病床で主治医となることのできる関連施設、3年目は小児、高齢者、切断、神経筋疾患など特徴のある関連施設に勤務します。各施設の勤務は半年から1年を基本としています。特に大学での研修は6ヶ月、回復期リハビリテーション病棟での受け持ち6ヶ月は、確保でされることが求められています。症例等で偏りの無いように、専攻医の希望も考慮して決められます。



(図1)

大阪大学リハビリテーション科専門研修PGの研修期間は3年間としています。修得が不十分な場合は修得できるまでの期間を延長することになります。一方で、subspecialty 領域専門医取得を希望される専攻医には必要な教育を開始し、また大学院進学希望者には、臨床研修と平行して研究を開始することを奨めます。

（３）研修 PG の施設群について

大阪大学リハビリテーション科研修 PG の施設群を構成する病院は以下の通りです。連携施設 A は診療実績基準を満たしており、半年から 1 年間のローテーション候補病院で、研修の際には雇用契約を結びます。連携施設 B は短期間の見学実習を行う施設となり、雇用契約は結びません。ローテーション例は次ページの表 1 を参考にしてください。

専門研修基幹施設

大阪大学医学部附属病院リハビリテーション科が専門研修基幹施設となります。

専門研修連携施設

連携施設の認定基準は下記に示すとおり 2 つの施設に分かれます。2 つの施設の基準は、日本専門医機構のリハビリテーション科研修委員会にて規定されています。

●連携施設 A

リハビリテーション科専門研修指導責任者と同指導医（指導責任者と兼務可能）が常勤しており、リハビリテーション科研修委員会の認定を受け、リハビリテーション科を院内外に標榜している病院または施設です。

- ・ 社会医療法人大道会 森之宮病院
- ・ 社会医療法人行岡医学研究会 行岡病院
- ・ 独立行政法人地域医療機能推進機構 星ヶ丘医療センター
- ・ 独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院
- ・ 社会福祉法人愛徳福祉会 南大阪小児リハビリテーション病院
- ・ 独立行政法人国立病院機構 大阪刀根山医療センター
- ・ 北大阪ほうせんか病院
- ・ 姫路赤十字病院
- ・ 社会医療法人生長会 ベルランド総合病院
- ・ 千里中央病院
- ・ 独立行政法人労働者健康福祉機構 大阪労災病院
- ・ 堺市立総合医療センター
- ・ 大阪母子医療センター
- ・ 大阪急性期・総合医療センター
- ・ ちゅうざん病院

●連携施設 B

指導医が常勤していない急性期病院、回復期リハビリテーション施設、介護老人保健施設、等、連携施設 A の基準を満たさないものをいいます。指導医が定期的に訪問するなど適切な指導体制を取る必要がある施設です。

- ・ 国家公務員共済組合連合会 大手前病院
- ・ 社会医療法人きつこう会多根脳神経リハビリテーション病院
- ・ 兵庫県立障害児者リハビリテーションセンター
- ・ ボバース記念病院

専門研修施設群

大阪大学医学部附属病院リハビリテーション科と連携施設により専門研修施設群を構成します。

*2年～3年目のうち半年以上は、回復期リハビリテーション病棟に勤務

1 年目	2 年目	3 年目
通年	通年	各施設半年～1 年
<u>基幹研修施設</u> 大阪大学医学部附属病院	<u>連携施設 A</u> 森之宮病院（回復期） 行岡病院（回復期） 箕面市立病院（回復期） 星ヶ丘医療センター（回復期） 多根脳神経リハビリテーション 病院（回復期） 北大阪ほうせんか病院（回復期） など	<u>連携施設 A</u> 大手前病院（脳血管障害・神経筋） JCHO 大阪病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・内部障害） 南大阪小児リハビリテーション病院（小児） 森之宮病院（脳血管障害・神経筋） 大阪刀根山医療センター（神経筋・小児・内部障害） 姫路赤十字病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・内部障害・廃用・がん） ベルランド総合病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・切断・内部障害・廃用・がん） など
<u>連携施設 A</u> 森之宮病院（回復期） 行岡病院（回復期） 箕面市立病院（回復期） 星ヶ丘医療センター（回復期） 多根脳神経リハビリテーション 病院（回復期） 北大阪ほうせんか病院 （回復期） など	<u>基幹研修施設</u> 大阪大学医学部附属病院	<u>連携施設 B</u> 大阪労災病院（脳血管障害・脊髄損傷・骨関節疾患・骨折・内部障害） など

問い合わせ先

担当者 佐原 亘

診療科ホームページ <https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/departments/rehabilitation.html>

